

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02384

研究課題名(和文) 日本前衛映画の発掘、修復、保存、再制作と一体化した学術的方法論の構築

研究課題名(英文) Building a method of academic research on the Japanese avant-garde films that integrates discovery, restoration, preservation and reproduction

研究代表者

平澤 剛 (HIRASAWA, GO)

明治学院大学・文学部・研究員

研究者番号：00573792

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、国際的な再評価が高まっている1950年代後半から70年代前半における日本前衛映画を対象に、新たな作家や作品の発掘、デジタル化を含めたネガ・ポジの修復、オリジナル・複製素材の保存、上映環境の再制作といった実践的な作業を通じたアーカイブ的な研究の新しい方法論の構築を目的とした。既存の作家・作品研究、技術的なアーカイブ論にとどまらず、劣化や散逸によって危機的な状態にある研究対象の保護とその研究の一体化を目指した。また、保管、保存状態を含めた体系的なリスト化を進めることで、国内外の研究者、関連機関からの協力を促し、国際的なネットワークによる日本前衛映画の保護と新たな研究の発展へと繋げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

作品や作家、歴史的検証を中心とした既存の映画研究とは異なった実証的な研究の方法論を新たに提起することで、日本前衛映画の研究基盤を整備するとともに、修復保存、デジタル化、再制作された素材を用いた上映や展示を、国内外の大学、映像機関、美術館などで行うことで、学術的のみならず、国際的、社会的な関心も喚起した。

研究成果の概要(英文)：This research, whose subject is Japanese avant-garde film from the late 1950s to the early 70s had the objective of constructing new archival research methodologies through carrying out hands-on work, including the excavation of unheralded filmmakers and their work, the restoration of films, including digitization, the preservation of original film prints and duplicate materials, and the reconstruction of original screening environments. Extending beyond conventional research on artists and their work, as well as the technical aspects of archiving, the research also aimed to protect the research materials, which are at risk of deteriorating or being damaged or dispersed, and to integrate the protection of materials with the research itself. In addition, this research encouraged cooperation among researchers and related institutions in Japan and internationally, and established a global network to protect the Japanese avant-garde films, and develop new research about them.

研究分野：人文学

キーワード：映画研究 前衛芸術史 フィルム・アーカイブ フィルム・キュレーション

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入り、1960年前後から1970年代前半を中心とする日本の前衛映画——実験映画、個人映画、アンダーグラウンド映画、アートアニメーション、ドキュメンタリー映画、PR映画などで実験的な表現を展開した作品群——に対する関心が国内外で高まっていた。著名な作家の再評価のみならず、これまでほとんど論じられてこなかった作家、グループ、運動体が、新しい観点から再発見されており、関連のシンポジウム、特集上映、展覧会、出版が相次いだ。しかし、こうした研究や上映は、アクセス可能な作品を扱うのが前提となるため、紹介する作品の選択が、上映素材、デジタル化の有無によって大きく左右されるという問題も少なくなかった。前衛映画は、表現の性質上、作家や制作者自身によって保管、管理されていることがほとんどであるため、作品それ自体が劣化、散逸、紛失している場合も珍しくなかった。

他方で、芸術分野全般において、デジタル化、アーカイブ、データベースについての議論が開始され、多くのプロジェクトが進行していったが、映画、映像研究の分野においては、研究対象が危機的な状況にあるという問題意識が、共有されているとは言い難かった。国立の映画機関である国立映画アーカイブは、周縁的な作品の寄贈も積極的に受けていれているが、その体系的な収蔵や修復には至っていなかった。またデジタル技術の発展に伴い、多くのフィルム素材の製造が中止され、現像所や技術者も少なくなるなど、研究以前の問題も顕著であった。

2. 研究の目的

1で指摘した問題点を踏まえ、1950年代後半から70年代前半における日本前衛映画を対象に、新たな作家や作品の発掘、デジタル化を含めたネガ・ポジの修復、オリジナル・複製素材の保存、上映環境の再制作といった実践的な作業を通じたアーカイブ的な研究の新しい方法論の構築を目的とした。これらによって既存の作家・作品研究、あるいは技術的なアーカイブ論にとどまらず、劣化や散逸などによって危機的な状態にある研究対象の保護とその研究の一体化を目指した。また、前衛映画の体系的なリスト化を日本語と英語で進め、現在の保管、保存状態を含めた一次情報を広く共有することで、国内外の研究者、映像・文化機関からの協力を促し、国際的なネットワークによる保護と研究もあわせて目指した。

3. 研究の方法

日本前衛映画の所在や保存状態を体系的に把握するため、作家や関係者への聞き取り、映画文化機関での所蔵調査を行い、作品の発掘、リスト化を進めていった。あわせて資料収集、技術的な調査をもとに、デジタル化を含めた修復保存の作業を行なった。また、複数の映写機を用いるエクспанデッド・シネマ、パフォーマンス上映、フィルム・インストールなど、当時の上映環境の再現が必要な作品に関しては、実際の上映や展示を通じた再制作によって検証し、そのインストラクションや記録を残した。作業方法は、大きく作品調査、資料収集・作品分析、技術的調査・修復・保存・再制作、研究成果の発信に分け、研究代表者が全体を統括し、作品調査、資料収集に関しては、国内外の研究協力者に作業を依頼した。

4. 研究成果

作家や関係者への聞き取り、作品の調査、デジタル化を含めた修復保存、再制作などの作業を、国内外の研究者、フィルム・アーカイブ、映画団体、美術館、NPOとの共同、協力によって行なった(城之内元晴、足立正生、金井勝、日本大学芸術学部映画研究会)。それらの研究成果を学術的な発表としてのみならず、国内外での上映や展示によって、幅広く紹介した。ただし、最終年度末に予定していた複数の企画は、コロナ感染症の拡大によって、一部をのぞき延期、中止となった。主な学術的な論文、発表については5を、その他(上映・展示、発表)については以下を参照。

上映・展示

More than Cinema: Motoharu Jonouchi and Keiichi Tanaami, Pioneer Works (New York, USA), March-April 2020

The Other Japanese New Wave: Radical Films from 1958-61, Japan Society (New York, USA), April 2019

The Other New Wave: Alternate Histories of Post WWII Japanese Cinema, Harvard Film Archive (Cambridge, USA), March-April 2019

『昨日からの別れ—日本・ドイツ映画の転換期』、『1968年—蜂起する路上』、東京ドイツ文化センター(東京都港区)、2018年5-6月

CUT/GASH/SLASH - Adachi Massao - A Militant Theory of Landscape, Rose and Shaheen Saleeby Museum, American University of Beirut (Beirut, Lebanon), March-August 2018

Shuji Terayama : Emperor of the Underground and Throw Away Your Books: The Films of Shuji Terayama, Harvard Film Archive and Anthology Film Archive (Cambridge and New York, USA), November-December 2017

Nagisa Oshima: The Dawn of Asia, TV Politics, documenta 14 (Kassel, Germany), July-August 2017

発表

平沢剛「風景論と報道論」『1968：転換のとき 映像における性と政治をめぐる』、東京ドイツ文化センター（東京都港区）、2018年6月3日

平沢剛「宮井陸郎における映画の拡張」『第10回恵比寿映像祭：Beyond the Frame』、東京都写真美術館（東京都港区）、2018年2月24日

Go HIRASAWA, “Nagisa Oshima and TV”, Nagisa Oshima: The Dawn of Asia, TV Politics, Documenta 14 (Kassel, Germany), July 20, 2017

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 平沢剛	4. 巻
2. 論文標題 一回性が生み出される瞬間 城之内元晴試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Collaborative Cataloguing Japan: Essays	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Go Hirasawa	4. 巻 73
2. 論文標題 ATG's Early Year and Underground Cinema	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Art Criticism in Taiwan	6. 最初と最後の頁 77-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 平沢剛	4. 巻
2. 論文標題 政治、街頭、あるいは日常への拡張	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 エクспанデッド・シネマ再考	6. 最初と最後の頁 94-105, 138-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Go Hirasawa
2. 発表標題 Japanese New Wave: Nihon University Film Club and VAN Film Science Research Center
3. 学会等名 The Other Japanese New Wave (Columbia University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平沢剛
2. 発表標題 映画の拡張から風景へ 一回性から不可視性への移行
3. 学会等名 第10回恵比寿映像祭:国際シンポジウム インヴィジブル、インターメディア、エクспанデッドー映像の可能性（東京都写真美術館、明治学院大学）（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Go Hirasawa, Ann Adachi-Tasch and Julian Ross	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Archive Books, Germany	5. 総ページ数 222
3. 書名 Japanese Expanded Cinema and Intermedia: Critical Texts of the 1960s	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----